

🔗 IO-Linkのデータテーブル

一般情報

通信モードのIO-Link	COM 2
最小サイクルタイム	2.3 ms
SIOモード	サポート対象
長さのプロセスデータ	8 Bit
ベンダーID	1832 (0x0728)
デバイスID	127 (0x00007f)
データストレージ	サポート対象
仕様、IO-Link	1.1

プロセスデータ

スマート-センサープロファイル							
Byte 1							
7	6	5	4	3	2	1	0
X	X	X	タイムスタンプイベント	品質信号		SSC2 (DOピン)	SSC1 (C/Qピン)
タイムスタンプイベント							
品質信号							
SSC2 (DOピン) [false = INACTIVE, true = ACTIVE]							
SSC1 (C/Qピン) [false = INACTIVE, true = ACTIVE]							

識別データ

指数 (10進数/16進数)	アクセス ⁽¹⁾	データ タイプ	長さ	サブ インデックス	デフォルト値	値の範囲	オブジェクト名	詳細
16 / 0x10	R	StringT	64 Bytes	0	TMSS France -	-	Vendor Name	ベンダーIDに割り当てられているベンダー名
17 / 0x11	R	StringT	64 Bytes	0	Simply easy!	-	Vendor Text	ベンダーに関する追加情報。
18 / 0x12	R	StringT	64 Bytes	0	XUMRPGAYM8	-	Product Name	完全な製品名。
19 / 0x13	R	StringT	64 Bytes	0	XUMRPGAYM8	-	Product ID	ベンダー固有の製品またはタイプの識別 (品目番号やモデル番号など)。
20 / 0x14	R	StringT	64 Bytes	0	PHOTO MINIAT CONTRAST IOL M8	-	Product Text	パラメーター「製品テキスト」には、デバイスの追加の製品情報が含まれています。
21 / 0x15	R	StringT	16 Bytes	0	-	-	Serial Number	各デバイスのベンダー固有の一意の識別子。
22 / 0x16	R	StringT	64 Bytes	0	-	-	Hardware Revision	各デバイスのハードウェアリビジョンの一意のベンダー固有の識別子 (例: HW-V1.0)。
23 / 0x17	R	StringT	64 Bytes	0	-	-	Firmware Revision	各デバイスのファームウェアリビジョンの一意のベンダー固有の識別子 (例: FW-V1.0)。

直接パラメーター

指数 (10進数/16進数)	アクセス ⁽¹⁾	データ タイプ	長さ	サブ インデックス	デフォルト値	値の範囲	オブジェクト名	詳細
0 / 0x00	R/W	UIntegerT	128 Bit	0	-	-	Direct Parameters - Page 1	デバイス検証の通信特性と識別子を定義する必須のパラメーターが含まれています。
	R	UIntegerT	8 Bit	1	-	-	Reserved	-
			8 Bit	2	-	-	Master Cycle Time	通信: マスターによって使用されている現在の通信サイクルの期間。この値はプロセスデータサイクルを定義します。
			8 Bit	3	-	-	Min Cycle Time	通信: デバイスがサポートする最小通信サイクル時間。この値は、可能な限り低いプロセスデータサイクルを定義します。
			8 Bit	4	-	-	M-Sequence Capability	通信: 通信メッセージの構造とサポートされている機能に関する情報。
			8 Bit	5	17	-	IO-Link Revision ID	通信: 現在使用されている通信プロトコルリビジョンのリビジョンID。
			8 Bit	6	-	-	Process Data Input Length	通信: プロセス入力データ (デバイスからマスターへのプロセスデータ) の長さに関する情報。
			8 Bit	7	-	-	Process Data Output Length	通信: プロセス出力データ (マスターからデバイスへのプロセスデータ) の長さに関する情報。
			8 Bit	8	-	-	Vendor ID 1	識別: ベンダーIDの最上位バイト。パラメーターであるベンダーID 2と組み合わせて、IO-Linkコミュニティによって割り当てられた一意のベンダーIDの16ビット値を定義します。
			8 Bit	9	-	-	Vendor ID 2	識別: ベンダーIDの最下位バイト。パラメーターであるベンダーID 1と組み合わせて、IO-Linkコミュニティによって割り当てられた一意のベンダーIDの16ビット値を定義します。
			8 Bit	10	-	-	Device ID 1	識別: デバイスIDの最上位バイト。パラメーターであるデバイスID 2および3と組み合わせて、ベンダー固有のデバイスIDの24ビット値を定義します。
			8 Bit	11	-	-	Device ID 2	識別: デバイスIDの中央バイト。パラメーターであるデバイスID 1および3と組み合わせて、ベンダー固有のデバイスIDの24ビット値を定義します。
			8 Bit	12	-	-	Device ID 3	識別: デバイスIDの最下位バイト。パラメーターであるデバイスID 1および2と組み合わせて、ベンダー固有のデバイスIDの24ビット値を定義します。
			8 Bit	13	-	-	Reserved	-
			8 Bit	14	-	-	Reserved	-
			8 Bit	15	-	-	Reserved	-
	W	UIntegerT	8 Bit	16	-	-	System Command	アプリケーション: ISDUをサポートしていないデバイス用のコマンドインターフェイス。コマンドの有効性と実行は確認されていません。

(1) R = Read / W = Write

システムコマンド								
指数 (10進数/16進数)	アクセス ⁽¹⁾	データ タイプ	長さ	サブ インデックス	デフォルト値	値の範囲	オブジェクト名	詳細
2 / 0x02	W	UIntegerT	8 Bit	0	-	130 = Restore factory settings 131 = Back-to-box 165 =メンテナンスの 確認 175 = Pingの開始/停 止 176 = エミッション 切り替え	System command	130：工場出荷時の設定に戻す（デバイスアクセスロック、アプリケーション固有タグ、機能タグ、ロケーションタグ、デバイス温度のしきい値、遅延設定、出力タイプ、キーロック、プロセスデータの構成、タイムスタンプトリガー、タイムスタンプの同期値、タイムスタンプリスト、ジョブ、SSC1/SSC2/パラメーター、SSC1/SSC2の構成、TIの結果、アクティブティーチ、RGBの選択、感度の選択） 131：すべての工場出荷時の設定を復元すると、センサーが「電源投入を待つ」状態になり、黄色と緑のLEDが交互に点滅します。 マスターが最新の仕様に更新されていない場合、このコマンドは誤った方法で視覚化される可能性があります。ISDUを使用してコマンドを送信します。 165：メンテナンスパラメータ（稼働時間のメンテナンス、電源投入後の最低デバイス温度、電源投入後の最大デバイス温度、デバイスのステータス、詳細なデバイスのステータス）をリセットします 175：黄色のLEDの点滅でセンサーを識別する機能 176：エミッションを切り替える（現在のステータスを確認するには、エミッタのステータスのパラメータを参照してください）
検出パラメータ								
指数 (10進数/16進数)	アクセス ⁽¹⁾	データ タイプ	長さ	サブ インデックス	デフォルト値	値の範囲	オブジェクト名	詳細
システムコマンド								
2 / 0x02	W	UIntegerT	8 Bit	0	-	75 = ティーチ静的 76 = ティーチ動的 79 = ティーチキャン セル	System command	75：標準の2ポイントのマークバックグラウンドのティーチ 76：動的ティーチの開始/停止 79：失敗状態からの終了
パラメーター								
67 / 0x43	R	UIntegerT	8 Bit	0	-	0 = ティーチングなし 1 = 静的ティーチ 2 = 動的ティーチ	アクティブティーチ	最後のティーチの取得が完了しました。 ティーチが失敗すると、デフォルトの「ティーチングなし」の値に設定されます。
90 / 0x5A	R/W	UIntegerT	8 Bit	0	-	0...13	感度選択	アナログ信号の増幅を選択します。 各段階で、増幅はx2ずつ増加します（ジョブアクティブ-ゲインと同じ値）。感度は次の取得時に変更されます。
92 / 0x5C	R	UIntegerT	8 Bit	0	-	1 = 十分なティーチ 2 = 標準のティーチ 3 = 不十分なティー チ	ティーチ品質	取得したコントラストの幅を示します。十分なティーチとは、センサーで、マークと背景のコントラストがヒステリシスの2倍を超える構成が確認されたことを意味します。中程度と不十分は、センサーがそれぞれ良好なコントラストの100%～75%と75%～50%の間でティーチされたことを意味します。このセンサーは、中程度および不十分なコントラストでも機能しますが、検出のしきい値よりもマージンが小さくなります。「不十分なティーチ」の場合、プロセスデータの品質アラームビットは常に「1」になります。測定されたコントラストがヒステリシスよりも低い場合、ティーチは失敗状態になります（TI Result - Teach-in State = 0x07 (ERROR)（TIの結果 - ティーチインの状態= 0x07（エラー））。
93 / 0x5D	R	UIntegerT	16 Bit	0	-	0...2048	品質のしきい値 - 高	PD-bit3のアラーム機能に対する品質アラームしきい値（プロセスデータ入力についてのセクションを参照）
94 / 0x5E	R	UIntegerT	16 Bit	0	-	0...2048	品質のしきい値 - 低	PD-bit2のアラーム機能に対する品質アラームしきい値（プロセスデータ入力についてのセクションを参照）
データパラメーター								
指数 (10進数/16進数)	アクセス ⁽¹⁾	データ タイプ	長さ	サブ インデックス	デフォルト値	値の範囲	オブジェクト名	詳細
36 / 0x24	R	UIntegerT	8 Bit	0	-	0 = Device is OK, 1 = Maintenance required, 2 = Out of specification, 3 = Functional check, 4 = Failure	Device Status	現在のデバイスの状態と診断状態のインジケーター。 「Device is OK（デバイスは正常です）」はデバイス正常であり、 「Maintenance required（メンテナンスが必要です）」はメンテナンスが必要であり、 「Out of specification（仕様からの逸脱）」は仕様からの逸脱を、 「Functional check（機能チェック）」は機能のチェックを、 「Failure（失敗）」は失敗を示しています
37 / 0x25	R	Array of 3-bytes OctetString	3 Bytes	-	-	-	Detailed Device Status	デバイス内で現在保留中であるすべてのイベントの一覧。
40 / 0x28	R	UIntegerT	1 Bit	0	-	-	PD Input	PDinチャネルからの最後の有効なプロセスデータ入力の読み取り
65 / 0x41	R	UIntegerT	16 Bit	0	-	0...2048	受光量	測定された信号 アナログ信号のオフセットは～325です。 センサーが高速モード（ジョブアクティブ-検出モード= 60kHz）に設定されている場合、このパラメータの読み取りはジッターと応答時間に影響を与える可能性 があり変遷状態の読み取り
81 / 0x51	R	UIntegerT	8 Bit	0	-	0 = エミッションOFF 1 = エミッションON	エミッション状態	
82 / 0x52	R	UIntegerT	80 Bit	0	-	-	デバイスの温度	次のパラメータは、さまざまな動作温度を示します
			16 Bit	1	-	-	実際の温度	現在の動作温度の読み取り
			16 Bit	2	-	-	電力投入以降の最低温度	前回の再起動以降に記録された最低動作温度の読み取り
			16 Bit	3	-	-	電力投入以降の最高温度	前回の再起動以降に記録された最大動作温度の読み取り
			16 Bit	4	-	-	耐用期間中の最低温度	最初の使用以降に記録された最低動作温度の読み取り
			16 Bit	5	-	-	耐用期間中の最高温度	最初の使用以降に記録された最大動作温度の読み取り
83 / 0x53	R/W	UIntegerT	32 Bit	0	-	-	デバイス温度のしきい値	不揮発性メモリに1時間ごとに保存されます。 デバイスの温度がしきい値を超えた場合はイベントが生成されます
			16 Bit	1	- 40	-	温度の最小しきい値	-
			16 Bit	2	130	-	温度の最大しきい値	-
87 / 0x57	R	UIntegerT	64 Bit	0	-	-	稼働時間カウンター	次の3つのパラメーターは、稼働時間のカウンターを示します
			32 Bit	1	-	0 ... 2 ³² -1	稼働時間	デバイスの稼働時間。ユーザーがリセットすることはできません。
			32 Bit	2	-	0 ... 2 ³² -1	稼働時間のメンテナ ンス	デバイスの稼働時間は、システムコマンド「メンテナンスの確認」でリセットされます。
			32 Bit	3	-	0 ... 2 ³² -1	電源投入以降の稼働時 間	電力投入以降の時間（時間単位）。
(1) R = Read / W = Write								

機能パラメーター								
指数 (10進数/16進数)	アクセス ⁽¹⁾	データ タイプ	長さ	サブ インデックス	デフォルト値	値の範囲	オブジェクト名	詳細
システムコマンド								
0 / 0x02	W	UIntegerT	8 Bit	0	-	177 = タイムスタンプアプリケーションのリセット 178 = タイムスタンプのリセット 179 = タイムスタンプ同期 180 = タイムスタンプPDビットのリセット	System Command	177：タイムスタンプのアプリケーションのリセット（タイムスタンプトリガー、タイムスタンプリスト、タイムスタンプPDビット） 178：クロックカウンタをリセットします 179：タイムスタンプ同期値（インデックス187）からカウントを開始します。このコマンドは、タイムスタンプリストをクリアし、タイムスタンプPDビットをリセットします。 180：タイムスタンプPDビットをリセットします
パラメーター								
24 / 0x18	R/W	StringT	32 Bytes	0	**** ... ****	-	Application-specific Tag	ユーザーまたはアプリケーション固有の情報でデバイスをマークする可能性。
25 / 0x19	R/W	StringT	32 Bytes	0	**** ... ****	-	機能タグ	パラメーター「機能タグ」は、ユーザアプリケーション専用です。デバイスの役割を設定するために使用できます。
26 / 0x1A	R/W	StringT	32 Bytes	0	**** ... ****	-	ロケーションタグ	パラメータ「ロケーションタグ」は、ユーザアプリケーション専用です。デバイスの場所を設定するために使用できます。
72 / 0x48	R/W	UIntegerT	40 Bit	0	-	-	ディレイ設定	-
			4 Bit	1	1	0 = ディレイなし 1 = ディレイOFF	ディレイモード	遅延モードを選択
			32 Bit	2	20	0 ... 2 ³² -1	ディレイ値	遅延の値[ms]を選択
73 / 0x49	R/W	UIntegerT	32 Bit	0	-	-	PDInputの構成	スマート機能のスイッチング値Q1を定義します
			2 Bit	1	0	0 = 無効 1 = 有効	品質アラームビット	品質アラームビット
			2 Bit	2	-	-	未使用ビット	-
			2 Bit	3	-	-	未使用ビット	-
			2 Bit	4	0	0 = 無効 1 = 有効	タイムスタンプビット	タイムスタンプビット
88 / 0x58	R/W	UIntegerT	2 Bit	0	0	0 = 非アクティブ 1 = アクティブ	キーロック	プッシュボタンの有効化/無効化
89 / 0x59	R/W	UIntegerT	8 Bit	0	-	1 = 赤, 2 = 緑 3 = 青	RGB選択	エミッションタイプを選択します（ジョブアクティブ- RGB選択と同じ値）
91 / 0x5B	R/W	UIntegerT	8 Bit	0	0	0 = 機能なし 1 = リモート 2 = ライト/ダーク 3 = ディレイ有効	入力機能構成	白線の入力機能 出力構成パラメーター（180）から線が出力として設定されている場合でも、白線の機能は選択されたままになります。
184 / 0xB8	R/W	UIntegerT	40 Bit	0	-	-	タイムスタンプトリガ	タイムスタンプを生成するイベント
			2 Bit	1	0	0 = 無効 1 = 有効	EVENT_1（未使用）	-
			2 Bit	2	0	0 = 無効 1 = 有効	EVENT_2（温度アンダーラン）	-
			2 Bit	3	0	0 = 無効 1 = 有効	EVENT_4（短絡）	-
			2 Bit	4	0	0 = 無効 1 = 有効	EVENT_3（温度オーバーラン）	-
			2 Bit	5	0	0 = 無効 1 = 有効	EVENT_5（電源障害）	-
185 / 0xB9	R	UIntegerT	16 Bit	0	-	-	タイムスタンプ設定	イベントとタイムスタンプの間の待機時間（ハードウェアに応じて異なる）。通常は3ミリ秒です。
			8 Bit	1	0	3	最大タイムスタンプ待ち時間	-
			8 Bit	2	0	1	タイムスタンプ解像度	-
186 / 0xBA	R	UIntegerT	70 Bit	0	-	-	タイムスタンプリスト	最後のタイムスタンプのトリガーは、電源投入、タイムスタンプ同期値、または0（工場出荷時設定の復元後）からカウントを開始します
			7 Bit	1	-	-	-	データ テーブルの最後にあるタイムスタンプテーブルの形式を参照してください。
			7 Bit	...	-	-	-	
			7 Bit	10	-	-	-	
187 / 0xBB	R/W	UIntegerT	48 Bit	0	-	-	タイムスタンプトリガ	タイムスタンプ同期の値のリセット
			16 Bit	1	0	0..999	ミリ秒	-
			8 Bit	2	0	0..59	秒	-
			8 Bit	3	0	0..59	分	-
			8 Bit	4	0	0..23	時間	-
			2 Bit	5	0	0...255	日	-

(1) R = Read / W = Write

出力パラメータ									
指数 (10進数/16進数)	アクセス ⁽¹⁾	データ タイプ	長さ	サブ インデックス	デフォルト値	値の範囲	オブジェクト名	詳細	
58 / 0x3A	R/W	UIntegerT	8 Bit	1	0	0 = SSC1 (デフォルト)	TI選択	ティーチチャンネルを選択 C/QおよびDO出力は相反します。SSC1のティーチはSSC2のティーチと同等です	
59 / 0x3B	R	UIntegerT	8 Bit	0	-	-	TI結果	パラメーター「ティーチインステータス」は、ティーチインプロセスのステータスと結果に関するフィードバックを提供します	
		UIntegerT	4 Bit	1	0	0 = アイドル状態 1 = 成功 4 = コマンドを待つ 5 = ビジー状態 7 = エラー	ティーチイン状態	ティーチインプロセスのステータスを示します	
		Boolean	1 Bit	2	0	false = ティーチポイントが 取得されていないか 、取得に失敗しまし た true = ティーチポイントが 正常に取得されまし た	ティーチインフラグSP	ティーチインフラグSP	
60/ 0x3C	R/W	UIntegerT	32 Bit	0	-	-	SSC1パラメーター	-	
			12 Bit	1	-	300...2000 ⁽²⁾	SP1	スイッチングポイント1 (SP1)、デフォルト値である400のスイッチングしきい値はオフセット (標準325) 以上である必要があります。 ジョブアクティブ-しきい値と同じ値です。	
			12 Bit	2	-	0	SP2	未使用	
61/ 0x3D	R/W	UIntegerT	32 Bit	0	-	-	SSC1構成	C/Qのピンの構成	
			2 Bit	1	-	0 = ハイアクティブ 1 = ローアクティブ	ロジック	ローアクティブモードでは、出力は明るい背景に暗いマークの状態です。アクティブになります (ダークモード)。 ハイアクティブモードでは、出力は暗い背景に明るいマークが表示された状態でアクティブになります (ライトモード)。 SSC1_ロジック= ハイアクティブ (0) → ジョブアクティブ_ダークモード = 0 SSC1_ロジック= ローアクティブ (1) → ジョブアクティブ_ダークモード = 1	
			8 Bit	2	-	1 = シングルポイント	モード	-	
			16 Bit	3	-	0 = 最小ヒステリシス 1 = 最大ヒステリシス	ヒステリシス	ヒステリシス_最大= 2 xヒステリシス_最小 ヒステリシスを最大に設定すると、センサーから見える最小 コントラストも2倍になります。ティーチはより安定しますが、 マークと背景の間の小さな違いに対する感度は 低下します。	
62/ 0x3E	R/W	UIntegerT	32 Bit	0	-	-	SSC2パラメーター	-	
			12 Bit	1	-	300...2000 ⁽²⁾	SP2	スイッチングポイント2 (SP2)、デフォルト値である400のスイッチングしきい値はオフセット (標準325) 以上である必要があります。ジ ョブアクティブ-しきい値と同じ値です。	
			12 Bit	2	-	0	SP2	未使用	
63/ 0x3F	R/W	UIntegerT	32 Bit	0	-	-	SSC2構成	DOピンの構成	
			2 Bit	1	-	0 = ハイアクティブ 1 = ローアクティブ	ロジック	SSC1とSSC2のロジックは常に反対です。	
			8 Bit	2	-	1 = シングルポイント	モード	-	
			16 Bit	3	-	0 = 最小ヒステリシス 1 = 最大ヒステリシス	ヒステリシス	DOピンの構成：ヒステリシス ヒステリシス_最大= 2 xヒステリシス_最小 ヒステリシスを最大に設定すると、センサーから見える最小 コントラストも2倍になります。ティーチはより安定しますが、 マークと背景の間の小さな違いに対する感度は 低下します。	
180 / 0xB4	R/W	UIntegerT	16 Bit	0	-	-	出力タイプ	-	
			8 Bit	1	3	1 = PNP 3 = プッシュプル	SIOモードでのC/Qピ ンの出力タイプ	-	
			8 Bit	2	3	1 = PNP, 2 = NPN, 3 = プッシュプル 4 = 入力	Output type of DO pin	-	
102 / 0x66	R/W	UIntegerT	8 Bit	0	-	0.3	ジョブのロード	選択した番号に対応するジョブをジョブアクティブにコピーします	
103 / 0x67	R/W	UIntegerT	8 Bit	0	-	0.3	ジョブの保存	現在のジョブ設定 (ジョブアクティブ) を指定されたジョブの位置に保存します	
200 / 0xC6	R/W	UIntegerT	128 Bit	0	-	-	ジョブアクティブ	-	
		Record	8 Bit	1	-	-	名前	-	
		UIntegerT	8 Bit	2	-	300...2000 ⁽²⁾	しきい値	SSCxのパラメーター – SP1	
		UIntegerT	8 Bit	3	-	0...13	ゲイン	感度選択	
		8 Bit	4	1	1...3	1...3	カラー	RGB選択: 1 =赤のエミッション、2 =緑のエミッション、3 =青のエミッション	
		8 Bit	5	1	0...1	0...1	ダークモード	SSC1の構成-ロジック: 0 =ハイアクティブ、1 =ローアクティブ	
		8 Bit	6	0	0...1	0...1	ヒステリシス係数	SSCxの構成-ヒステリシス: 0 =ヒステリシス最小、1 =ヒステリシス最大	
		8 Bit	7	0	0...1	0...1	コントラスト係数	0 =最小コントラスト係数、1 =最大コントラスト係数	
		8 Bit	8	1	0...1	0...1	検出モード	0 =正確な検出モード (30 kHz)、1 =高速な検出モード (60kHz)	
201 / 0xC9	R/W	UIntegerT	128 Bit	0	-	-	ジョブアクティブ	-	
		Record	8 Bit	1	-	-	名前	-	
		UIntegerT	8 Bit	2	-	300...2000 ⁽²⁾	しきい値	SSCxのパラメーター – SP1	
		UIntegerT	8 Bit	3	-	0...13	ゲイン	感度選択	
		8 Bit	4	1	1...3	1...3	カラー	RGB選択: 1 =赤のエミッション、2 =緑のエミッション、3 =青のエミッション	
		8 Bit	5	1	0...1	0...1	ダークモード	SSC1の構成-ロジック: 0 =ハイアクティブ、1 =ローアクティブ	
		8 Bit	6	0	0...1	0...1	ヒステリシス係数	SSCxの構成-ヒステリシス: 0 =ヒステリシス最小、1 =ヒステリシス最大	
		8 Bit	7	0	0...1	0...1	コントラスト係数	0 =最小コントラスト係数、1 =最大コントラスト係数	
		8 Bit	8	1	0...1	0...1	検出モード	0 =正確な検出モード (30 kHz)、1 =高速な検出モード (60kHz)	

(1) R = Read / W = Write (2) アナログ信号のオフセットは約325です。しきい値がこの値を下回っている場合、出力を切り替えることはできません

出力パラメータ								
指数 (10進数/16進数)	アクセス ⁽¹⁾	データ タイプ	長さ	サブ インデックス	デフォルト値	値の範囲	オブジェクト名	詳細
202 / 0xCA	R/W	UIntegerT	128 Bit	0	-	-	ジョブアクティブ	-
		Record	8 Bit	1	-	-	名前	-
		UIntegerT	8 Bit	2	-	300...2000 ⁽²⁾	しきい値	SSCxのパラメータ – SP1
		UIntegerT	8 Bit	3	-	0...13	ゲイン	感度選択
			8 Bit	4	1	1...3	カラー	RGB選択:1 =赤のエミッション、2 =緑のエミッション、3 =青のエミッション
			8 Bit	5	1	0...1	ダークモード	SSC1の構成-ロジック:0 =ハイアクティブ、1 =ローアクティブ
			8 Bit	6	0	0...1	ヒステリシス係数	SSCxの構成-ヒステリシス:0 =ヒステリシス最小、1 =ヒステリシス最大
			8 Bit	7	0	0...1	コントラスト係数	0 =最小コントラスト係数、1 =最大コントラスト係数
			8 Bit	8	1	0...1	検出モード	0 =正確な検出モード (30 kHz)、1 =高速な検出モード (60kHz)
203 / 0xCB	R/W	UIntegerT	128 Bit	0	-	-	ジョブアクティブ	-
		Record	8 Bit	1	-	-	名前	-
		UIntegerT	8 Bit	2	-	300...2000 ⁽²⁾	しきい値	SSCxのパラメータ – SP1
		UIntegerT	8 Bit	3	-	0...13	ゲイン	感度選択
			8 Bit	4	1	1...3	カラー	RGB選択:1 =赤のエミッション、2 =緑のエミッション、3 =青のエミッション
			8 Bit	5	1	0...1	ダークモード	SSC1の構成-ロジック:0 =ハイアクティブ、1 =ローアクティブ
			8 Bit	6	0	0...1	ヒステリシス係数	SSCxの構成-ヒステリシス:0 =ヒステリシス最小、1 =ヒステリシス最大
			8 Bit	7	0	0...1	コントラスト係数	0 =最小コントラスト係数、1 =最大コントラスト係数
			8 Bit	8	1	0...1	検出モード	0 =正確な検出モード (30 kHz)、1 =高速な検出モード (60kHz)

「ジョブアクティブ」には、センサーの設定に使用されるすべてのパラメーターが含まれています。ティーチの後、結果の構成は「ジョブアクティブ」に表示されます。ジョブに名前を付けて、3つのジョブスロットのいずれかに保存できます。パラメータ「ジョブの保存」を使用してアクティブなジョブをメモリスロットに保存し、「ジョブのロード」を使用してアクティブな構成に呼び戻します。さらにジョブ設定を保存する必要がある場合は、インデックス200を読み取り、結果の16バイトを格納します。インデックス200（ジョブ アクティブ）の16バイトを書き戻して、構成を呼び戻します。

アクティブなジョブのほとんどのパラメータは、他のデータセンシングの光電センサーパラメータの標準的なインデックスで複製されています。これらのパラメーターは、標準的なインデックスのパラメータを使用して変更することも、ジョブアクティブの構成で直接変更することもできます。センサーはパラメーターを整合性がある状態に維持します。ヒステリシスおよびコントラスト係数を使用してセンサーの感度を下げ、信号の変動（振動、距離の変動、ノイズなど）に対する検出をより安定させることができます。

ヒステリシス係 数	コントラスト 係数	
0	0	十分なティーチのための最小ヒステリシスと最小コントラスト= 2x最小ヒステリシス
0	1	最小ヒステリシス、十分なティーチのための2倍のコントラスト
1	0	ヒステリシスを2倍にし、コントラストを2倍にして、十分なティーチを実現します
1	1	ヒステリシスを2倍にし、コントラストを4倍にして十分なティーチを実現します

ヒステリシスを大きくすると、オンとオフの検出しきい値の差が大きくなります。十分なティーチのためにコントラストを上げると、センサーがティーチ中により高いコントラスト構成を探すように強制されます。これらの2つのパラメーターは、品質アラームのしきい値（インデックス93および94）を自動的に定義します。

検出モードを使用して、センサー速度を60kHz（ジッター= 4us）または30kHz（ジッター= 8us）に設定します。低速の場合はセンサーの感度が向上されます。非常に難度の高いコントラストには、正確な検出（30kHz）を使用します。

タイムスタンプテーブル

	IDイベント	日	時間	分	秒	ミリ秒	
最後に発生したイベント_X	Byte 1	Byte 2	Byte 3	Byte 4	Byte 5	Byte 6	Byte 7
	Byte 8	Byte 9	Byte 10	Byte 11	Byte 12	Byte 13	Byte 14
	Byte 15	Byte 16	Byte 17	Byte 18	Byte 19	Byte 20	Byte 21
	...	...	...	...	...	...	...
	...	...	...	...	...	...	...
	...	...	...	...	...	...	...
最初のイベント_Xが発生しました	Byte 64	Byte 65	Byte 66	Byte 67	Byte 68	Byte 69	Byte 70

エラーの種類			
コード（10進法/16進法）	追加コード	名前	詳細
128 / 0x80	17 / 0x11	Index not available	存在しないインデックスに対する読み取りまたは書き込みアクセスが試行されました。
128 / 0x80	18 / 0x12	Subindex not available	既存のインデックスの存在しないサブインデックスに対する読み取りまたは書き込みアクセスが試行されました。
128 / 0x80	48 / 0x30	Parameter value out of range	書き込まれたパラメーター値が許容値の範囲外です。
128 / 0x80	51 / 0x33	Parameter length overrun	書き込まれたパラメーターが指定された値より長くなっています。
128 / 0x80	52 / 0x34	Parameter length underrun	書き込まれたパラメーターが指定された値より短くなっています。

イベント			
コード（10進法/16進法）	警告	名前	詳細
16928 / 0x4220	Warning	温度アンダーラン	絶縁デバイス
16912 / 0x4210	Warning	温度オーバーラン	熱源のクリア
20736 / 0x5100	Error	電源障害	可用性の確認
30480 / 0x7710	Error	短絡	インストールの確認
35904 / 0x8c40	Warning	Maintenance required - Cleaning	デバイスのクリア

(1) R = Read / W = Write (2) アナログ信号のオフセットは約325です。しきい値がこの値を下回っている場合、出力を切り替えることはできません